

令和6年度病害虫発生予察情報 特殊報第5号

ナシ果実におけるサクセスキクイムシ成虫による 食入被害の初確認について

令和6年12月24日

発表：福島県病害虫防除所

1 害虫名：サクセスキクイムシ

2 学名：*Xyleborinus saxeseni* (Ratzeburg)

3 発生経過

令和6年8月、福島県県北地方のナシ生産者から、ごく小さな穿孔被害のある「幸水」果実が、当所に持ち込まれ、キクイムシ成虫と思われる昆虫が確認された。

横浜植物防疫所に同定を依頼したところ、サクセスキクイムシであると判明した。これまで本県では、本種によるナシの被害は樹幹部への穿孔食害が確認されていたが、果実での被害は初確認である。

本種によるナシ果実の被害は、平成17年に千葉県において確認され、それ以降、近隣の栃木県、新潟県、宮城県、茨城県を含む9県から特殊報が発表されている。

4 形態と発生生態

(1) 成虫は、体長約2mm、細長い円筒形で、光沢のある黒褐色をしている(写真1)。

(2) 本種は、年1～2回発生する。成虫で樹内越冬し、翌年4～5月頃脱出して衰弱している樹や倒木に深く穿孔し、孔道を作る。孔道の直径は約0.7mmで食入後に細かい木屑を排出する。

(3) 成虫がナシ果実を穿孔し(写真2、3)、日数の経過とともにその穿孔部分を中心に腐敗する。

5 寄生植物

本種は、各種針葉樹、広葉樹に寄生する。果樹類ではナシのほかに、リンゴ、モモ、カキ、クリ、イチジクなどで、衰弱した枝幹部へ穿孔し、樹勢の低下や樹幹病害を併発して枯死に至らせることもある。

6 防除対策

(1) 果実は過熟になると被害を受けやすいため、適期に収穫する。

(2) 樹勢の衰えた樹は加害を受けやすいので、適正な肥培管理により樹勢の維持、回復に努める。

また、穿孔が多く、衰弱の激しい樹は主幹部が残らないように伐採し、剪定した枝幹等も含めて適切に処分する。

(3) 被害果を確認した場合は、周辺に枝幹の穿孔被害も発生している可能性が高いため、木屑(フラス)を目印に成虫を探索する。

枝幹被害を確認した場合は、成虫活動時期の4～5月にトラサイドA乳剤を樹幹部に十分散布する（表）。なお、散布液が葉にかかると薬害を生じるおそれがあるので、樹幹部のみに散布する。

7 引用文献

- (1) 令和3年度病害虫発生予察特殊報第2号（茨城県病害虫防除所）
- (2) 令和3年度発生予察情報特殊報第2号（埼玉県病害虫防除所）



写真1 サクセスキクイムシ成虫

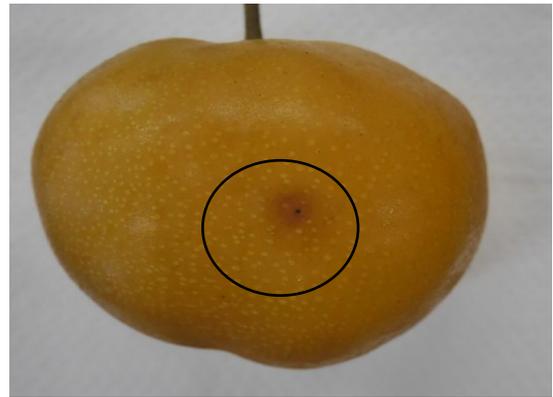


写真2 果実表面の食入痕

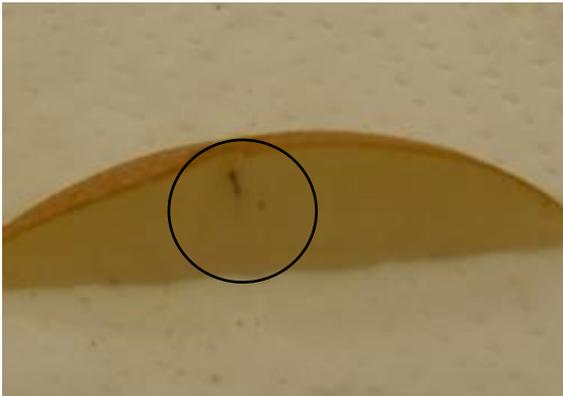


写真3 果肉内に食入した成虫

表 ナシのキクイムシ類防除薬剤の使用基準

作物名	適用病害虫	薬剤名	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の使用回数	使用液量
なし	キクイムシ類	トラサイドA乳剤	200倍	樹幹部に十分散布	4月～7月 (但し、収穫 21日前まで)	5回以内	0.5～2.0 L/樹

(登録内容は令和6年12月11日現在)

病害虫発生予察情報・各種情報は、福島県病害虫防除所ホームページに掲載しています。

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

問い合わせ先：福島県農業総合センター安全農業推進部発生予察課（病害虫防除所）

TEL：024-958-1709 FAX：024-958-1727 e-mail：yosatsu@pref.fukushima.lg.jp